



体力づくりは教育の基礎

歌碑 岡田梅松 -沼田中学校-

### 建き子の

はげむすがたぞたのもしき

我が学園は永久にさかえん

岡田梅松が沼田中学校校長在任中、長田清さんは美術教諭として教鞭を執っていました。「先生は率先して生徒の中に入り、部活動やテニスの指導を通して、何事にも情熱を傾けるよう訴えていました」。当時の校長は近寄りづらい存在でしたが、「生徒は先生に積極的に助言を仰ぐなど、尊敬のまなざしを向けていました」と振り返ります。

梅松はお酒をこよなく愛し、教職員とよくお酒の席を共にしました。「先生はお酒



岡田家墓所隣に建つみねの歌碑へをどりの輪ゆるみて囃子乱れけり

を飲むと、相手のひざをつねります。大事に思う合図です」と、長田先生は懐かしみます。

梅松は退職後、教育への情熱を文学に傾注し、短歌や

掌編小説など数多くの作品を残しました。「たくましく取り組む生徒の姿は明るい未来を築く礎」として、同校中庭に石碑が埋められています。

妻のみねも文学に励み、晩年親しんだ俳句は四季折々の眺めが多く詠まれています。「若草俳句会」が金剛院(坊新田町)に碑を建立しました。



生徒の明るい未来描く  
長田清さん  
-戸鹿野町-

木立に囲まれる砥石神社社殿の左奥、竹やぶを背に大きな杉の木の陰に立つ自然石に歌が刻まれていきます。神社の清掃活動に取り組む村の学童の様子を詠んだもので、さわやかな夏の朝の風情が浮かびます。

華道の師匠武井柳仙(本名和十郎)は、利南村沼須の石屋の長男として生まれ、通称十さんとして地域から親しまれました。清掃を通して、子どもたちが社会奉仕の精神や快適な環境を自らでつくる地元愛を育めるよう、精力的に指導しまし

学び子の朝のつとめも  
おごそかに  
はさきよめけり  
氏神の苑



神社周辺は升形小学校の通学路。歴史を聞き、刻まれた文字を覗き込む升形小児童

た。碑は、石工の腕を自らが奮って刻みました。

柳仙は独学で義太夫を語り、安政

年間から伝わる沼須人形芝居の一員として各地を巡業。神社では、毎年4月上旬に人形芝居が演じられます。

### 氏神の聖域守る子の姿

歌碑 武井仙柳 -砥石神社-



金井七郎さん  
-鍛冶町-

### 多くの子ども集い 地域きれいに

沼須に20歳まで住み、砥石神社は一切経や人形芝居の行事でぎわったり、野球の練習をしたりと懐かしい場所です。神社の清掃は毎月1回、境内の掃き掃除を中心に一生懸命取り組みました。20~30人と多くの子どもが集まり、9人いる私の兄弟の何人かも参加していました。友人たちに会えるうれしさや地域がきれいになる気持ちよさが思い出されます。